

紙 一 重

備えあれば憂いなし!でも、間違った方法なら意味がありません。そこで、わが身を守るための“防災の新常識”をご紹介します。

家具の転倒防止

家具はつっぱり棒や、L字金具でしっかり固定! これなら、どんな地震がきても安心ですよね?

つっぱり棒では対策不十分

現在、さまざまな家具の転倒防止グッズが流通しています。選ぶ基準は、震度7レベルの地震を想定した検証実験済みの製品であること。家具を倒れにくくする”など、あいまいな表現をしている製品はNG。先日の「大阪府北部地震」で、そのような製品で固定した家具が転倒したという報告もあるので絶対に避けて。

両面テープ式の製品も有用

L字金具など金具で家具を固定するグッズは、壁版だけでなく、ネジを柱に固定しなければ意味がありません。そこで両面テープで壁と家具を固定する製品がおすすめです。しっかり固定できるうえ、壁に傷がつかないものメリット。メーカーが公開する実証映像を参考にしながら、賢く転倒防止を行いましょう。

最も対策すべき家電は冷蔵庫

家電の転倒で最も危険度が高いのが冷蔵庫。大型であれば100kgを超える重量です。その下敷きになったら命に関わる可能性があります。また扉が開いて、ガラスの瓶や調味料などが飛び散り、二次災害の可能性も。冷蔵庫は3日分の食料が確保できる備蓄庫です。災害時の生命線になるので、絶対に転倒させてはいけません。

防災訓練

防災訓練で、消火器の使い方は教わりました! 一度参加して覚えたので、火災になっても大丈夫!

防災訓練は毎年参加すべし

防災訓練は、一度参加しただけでは不十分です。災害時に使用する消火器などは、日常でほとんど使用しないため、繰り返し使い方を確認しなければなりません。ゆえに、定期的な防災訓練を受けることが大事なのです。一年に一度は防災訓練に必ず参加して、自分や周囲の人々の命を守る術を身につけましょう。

共用部の消火器も活用しよう

火災対応で大事なのは、発生から2分以内の初期消火。特に、集合住宅は一戸の火事が大火災につながるため、冷静に消火器を使えるか否かが命綱になります。自宅や共用部の消火器の使用法、設置場所を防災訓練で再確認しましょう。さらに火元に投げ入れるだけで消火できる消火用具もあります。

119番の模擬通報も大切

大火災を最小限に食い止めるには、すみやかな119番通報が求められますが、非常時はうまく対応できないものです。そこで、災害の種類、場所、状況、氏名を指令員に伝える、模擬通報の訓練を行います。同時に、「火災通報装置」がマンション内のどこにあるかも確認。これらも重要な防災訓練と、心得て!



[監修] 岡部梨恵子さん / 防災アドバイザー・防災士